



# DRAMA かながわ No. 85

Theater Association of Kanagawa February 2022

## 令和3年度 神奈川県演劇フェスティバル

オススメの書籍

劇団探訪 劇団砂からマカロン 篇

2021年度TAK合同公演

第19回かながわ演劇博覧会

資料室だより ほか





# 令和3年度 神奈川県演劇フェスティバル

## 演劇プロデュース『螺旋階段』

「小田原みなとものがたり～かまぼこ美味しい編～」

- 作／演出：緑慎一郎
- 2021年11月12日～14日
- 於：小田原三の丸ホール 小ホール

演劇プロデュース「螺旋階段」創立15周年おめでとうございます。

不器用でぶっきらぼうな漁師「赤城智則」とその仲間たちが2年ぶりに帰ってきた！前作「小田原みなとものがたり～アジが美味しい編～」では男手ひとつで娘を育ててきた赤城と仲間の笑い溢れる日々に嵐の訪れと共に離婚した妻と婚約者がやってきて、すったもんだの末、バラバラになった家族がそれぞれの新しい道へと踏み出すというものでした。

今作はその続編として、数年後のさびれかけた小田原みなと商店街に元気を取り戻したい、お祭りを実現しようと奮起するというストーリーでした。

まず舞台冒頭。気迫に満ちた力強い地元の漁師木遣りは圧巻で一気に舞台に惹き込まれます。みなと商店街で祭りを復活させ再び街を盛り上げたい面々と踏み切れない組合側との葛藤は、今の時代に通じるリアルな話でした。実現した祭りで披露された生歌での小田原えっさホイ踊りも相



当な練習量が伺えました。

人を思う優しさや信頼、親子の絆、大切な人を笑顔にしたいというコンセプトはシンプルで、祭りを開催するしないの話は少々引っ張りすぎ感もあり「起承転結」のもっと大きな「転」が欲しいところでしょうか。しかし今回は新しいホールでの公演であること、創立15周年であることで、とにかく楽しいお祭り騒ぎでありたいという思いが色濃かったように感じました。あえて小難しい話にはせず、面白く楽しめて笑顔がこぼれる・そういった意味では大成功だったと思います。だって役者全員がかつて見たことが無いほどスッキリした満面の笑みで、やり切った感のいい顔したエンディングでしたから。

セットや音響など細部にもこだわりの感じられる15周年に相応しい公演でした。次回は「転」の効いた作品を期待します。

文：保乃しんり（劇団こゆるぎ座）

## 京浜協同劇団

「濯ぎ川」「高瀬舟」

- 作：(濯ぎ川)森鴉外／(高瀬舟)飯沢匡、演出：護柔一
- 2021年11月20日～21日、23日、27日～28日
- 於：スペース京浜

約2年ぶりの本公演となった今回の芝居は、狂言の「濯ぎ川」と名作文学である「高瀬舟」の2本立てだった。狂言は独特の芝居感があるため、かなり難しいのは誰もが知っているだろう。だが、第一声からの発声の良さ、初登場では姿勢の良さ、その両方が揃っていることに驚く。基礎のしっかりできあがった役者であることがすぐ分かった。

今回は濯ぎ川で「狂言風」の舞台を行うと説明があったため、どのような演出になるのか楽しみだったが、やはり苦戦している様子が窺えた。狂言にしたいのか、ストレートにしたいのかどこか中途半端になっている瞬間が何度か見え、どこかもどかしい気持ちになってしまった。基礎がしっかりしている分、芝居ではなく素でセリフを思い出している間までもはっきりと分かってしまう。

セリフ回しも、狂言風にするならもっと登場人物の会話のキャッチボールが見えた方が古語でも観客に会話の内容が伝わりやすくなるだろう。ただ、動きは極力狂言になるようにして感動した。

2本目の高瀬舟は、内容に救いようがない分どこまで感



情移入させることができるのかが楽しみだった。結果は満足だったと言える。

こちらはストレートの芝居だったのだが、衣装や舞台装置もしっかりしており、月明かりの照明も非常に優いで美しかった。当時のまだ汚れていない空気と、どこか殺伐とした雰囲気がよく感じられた。特に喜助が犯した罪について詳しく話す長台詞には魅了された。単純に声が良いというのも勿論あるが、変につっかえることもなく、それでも起きた事実を確実に噛み締めながら喋っている姿にはこちら心も沈んだ。グロテスクな描写を淡々と話す潔さには救済の気持ちさえも感じられた。欲を言えば、物語全体を通してもっと抑揚がついていれば良かった。語りを含め、単調に進みすぎてしまった感じがした。

どちらも短い作品で集中力が切れることなく見る事ができた。古典を小劇場でやること自体が挑戦であることは間違いないので、これからも老舗の劇団らしくどんどん難しいことに挑んでほしいと思える芝居だった。

文：本庄未怜（劇団砂からマカロン）



## 劇団かに座 「オイル089」

- 作：福田卓郎、改訂／演出：馬場秀彦
- 2021年12月3日～5日
- 於：関内ホール・小ホール

この物語は現代社会に存在する不老不死の人種という架空の人々の生き方を描いた作品です。その中で私が一番印象に残ったのは、物語の世界で出演者たちがきちんと生きていたという点です。不老不死の人種というような架空の存在を描く場合、作りこみの甘さは観るものを白けさせるものですが、本作ではリアリティをもってきちんと描かれおり、物語の世界観に没入して観ることが出来ました。

本作は世代の近い役者たちが、若者とベテランのチームに分かれており、若者たちは元気で活力のある人物像を、ベテラン勢は含みのある円熟した人物像を作り上げているのがよく見てとれました。この分かれた世代は物語の一つの重要な要素であります。

不老不死の人種・エドモンは一般の人間よりもゆっくりと時間が流れており、自分たちの周りの若者達もいずれ自分を追い越して老いていく、そんな時間を何度も過ごしてきました。彼らは一般の人間と深く関わらないよう、壁を作って生きてきました。このエドモンを演じている役者た



ちの演技からは「異なる時間を生きてきた」人間の人間性が垣間見えました。

そしてそんなエドモンの生き方を覆す場面が強く印象に残っています。エドモンの一人である愛子と自分より年上になってしまった社長の別れの場面です。愛子は社長に子どもの頃の呼び名で呼びかけます。すると忽ち二人は昔に帰り、かつてよく遊んだオセロを楽しむのでした。溶暗していく照明の中、去っていく愛子、残される社長の名残惜しい様子には確かな絆を感じ思わず私も目頭が熱くなりました。

異なる時間を生きる人というのはフィクションです。だが、ここにリアリティを持たせるのが役者の力量です。劇団かに座『オイル089』には確かに生きている人物がいて、その喜び・葛藤・苦悩が自分のもののように感じられ本当にいい芝居を観たと思いました。

文：横山銀芽 (G/9-Project)

## 劇団河童座 「日本発難民船物語 ～令和版～」

- 作／演出：横田和弘
- 2021年12月4日～5日
- 於：横須賀市立青少年会館3Fホール

1951年に横須賀の高校生演劇部OBを中心に創立された当劇団は、生まれも育ちも生粋の横須賀っ子。今回がなんと236回目の公演。とても歴史のある劇団です。オリジナル中心に現代劇・古典・児童劇など、創る側も観る側もみんなが楽しめる芝居を毎回見せてくれています。

さて私は12月4日(土)13時30分開演の公演を観劇させて頂きました。

日本発(初?笑い)の難民船(日本から脱出する)がもし(横須賀沖の無人島)猿島から出港し乗客7名に限って公募された時、ノアの箱舟の如く選別がうまくいくだろうかと心配しそうだが、この船は希望者がどうやら殺到したわけでもなくすんなり選別が終了していた。しかも横須賀青少年会館3階の会合室(ホールと同じ階にある)で選別されたようでした。

乗客を紹介してみよう。経済難民といわれる博打好きな主婦、釣りが好きなまじめな公務員、刑事に追われている血を見ると卒倒する変な悪人、それを追いかける婦警と婦警を好きな刑事、女優と自分を信じている女性、とおかし



な存在の少年の合計7名だ。乗員は船長とその助手の2名のみ。

グルグルグルグルと猿島の周辺を抜け出すことができずうろろとさまよっている船上で、その様子が面白おかしく特徴ある登場人物の役柄によって最初から最後まで笑いのたえないお芝居で、コロナのことなんかすっかり忘れてしまいました。

私はまず「こんな人はおらんやろ(大阪弁)」と思いつつも舞台の進行についついひきずられてしまって、最後まで見てしまいました。

コロナ禍の中で頑張って稽古を続け本番を迎えられた仲間のひとりひとりに敬意を払うものです。

最後に(^♪♪)河童座音頭のさわりをお送りし感想を閉じさせてもらいます。おつかれさまでした。

(^♪)「弱った時でも、困った時でも、何でもかんでも屁の河童ヨイヨイ～」

笑い・・・笑い・・・笑い・・・笑い・・・。

文：村田次郎(劇団蒼い群)



# 劇団横濱にゆうくりあ 「モノログの可能性2021」

- 総合プロデュース：泉谷渉
- 2021年12月4日～5日、11日～12日
- 於：劇団本部特設スタジオ

劇団横濱にゆうくりあの映像作品「モノログの可能性2021」が上演された。本作は3つの短編作品から構成されており、そのすべてがモノログ（一人芝居）であった。

最初に上演された「ダンシング・オールナイト in YOKOHAMA」は、老婦人が思い出の品を1つ1つ丁寧に取り上げ、仕舞うところから始まる。昔の思い出を語り、時には大好きな歌を踊りながら口ずさむ姿に婦人の茶目っ気が溢れていた。話が進むにつれ、何度も同じ問答が繰り返され、観客は女性が認知症であることに気づかされる。子供の名前も言えなくなるのでは、思い出の品も思い出せなくなるのでは、と記憶を徐々に失っていく静かな恐怖を抱えながら生きてゆく老婦人に、もの悲しさを覚えずにはいられなかった。

2本目の「君はハナオカ実太を見たか」は、海を見ていたジョニーさんが衝撃的なビジュアルで登場し先の作品の雰囲気がかっさらっていった。派手な被り物、顔にはペイントが施され、手には犬のぬいぐるみを持っているのだ。1本目では舞台を変えず室内で撮っていたのに対し、本作



は横浜の町で撮られている。その派手な見た目と横浜の町並みの不思議なバランスに笑いを誘われた。そんなインパクトのある見た目の主人公が神妙な面持ちで見聞きしたことを語りかけてくる。特に、目の前で息子を失い悲しむ母の一幕を語る場面では、状況が細かに説明されることで、情景がありありと思い浮かび心苦しくなった。

3本目の「又次のじっちゃん恋物語」は、タイトル通りじっちゃんが若かりし頃の恋の話を語ってくれる。こちらも先の作品同様に横浜の名所を中心に撮影されていた。出世のために恋愛を捨てたじっちゃんだったが、後悔から元恋人の消息を辿ってゆく。しかし、彼女はもうこの世を去っていたことが判明する。恋人との思い出の銀杏並木が画面いっぱい映されたとき、決して戻ってくるのではない尊い時間が感じられ、一緒に泣きたくなるような切ない気持ちになった。最後はひょうきんなじっちゃんに戻り、横浜の街に繰り出す彼の逞しさに感服した。

三者三様のお芝居を堪能できる贅沢な映画でとても面白かった。

文：中川内瑠奈（マシュマロ・ウェーブ）

## オススメの書籍

別役実とは日本を代表する劇作家であり随筆家、また童話作家でもある。鋭い視線と感性で我々に演劇的世界を構築して見せてくれる。しかし、本著は演劇論でも舞台制作論でもない。ただ世にある犯罪の多くについて社会心理学的な視点からの彼なりの考察を綴ったものである。犯罪には多くの場合、思いをもちけない被害を受けて苦しむ被害者がある。非日常的な振る舞いという意味であろうか、著者は自殺をもテーマの一つに取り上げているが、その場合も取り残された家族の苦悩はひとかたならぬものがあるだろう。それでもテーマ一つが興味深く面白い。犯罪を分析してコメントを綴ったものを面白いと評価しては齟齬を買うかもしれない。しかしそれでも別役の言葉に納得してしまう。犯罪の持つ非日常性に対する興味を引き出してくれるのは、著者の文筆家としての技量だろう。さらに事例として取り上げた犯罪の底流にある人間心理に向けた深い洞察力が読むものを惹きつける。

そも犯罪とは何だろうか？

我々の日常生活は、多くの場合はなんのドラマもない平凡な時間経過の中で綴られていく。犯罪こそ演劇の根幹であるドラマツルギーそのものであることを気づかせてくれる。一つの例が泥棒である。別役は泥棒がなぜ犯罪なのかと問いかける。えっ？と構えてしまう。だって他人の物を盗ったらそりゃあ犯罪でしょ、と考えるのはフツの人の

健全な発想だ。ところが筆者は社会の経済活動にはめ込んで泥棒の犯罪性を定義して見せる。経済活動はいかなる自由主義制度の下でも国によって管理されている。その厳格な仕組みの中で泥棒によって物が運搬され移動される。物資はそれが豊富な場所から不足している場所へ移動する。この点で泥棒の行為は経済活動の一端に存在するという。このくだりを読んでいるとまるで不条理劇の慷慨のような気分になる。

かくのごとくこの本の中には、別役実のアイロニーに満ちた深い洞察力がちりばめられている。それは演劇とは無縁の人生を生きているフツの人々にとってもとても興味深いものだろう。だからこの本は、別役実の名前に惑わされず芝居にはあまり興味ないんだけど、という方にもぜひご一読をお勧めする。

文：吉浜直樹（劇団横濱にゆうくりあ）



### ■別役実の犯罪症候群（シンドローム）

別役実 著  
三省堂 出版  
ページ数:293  
1981年10月21日刊行  
B6版



■取材：オッスタかのり（劇団かに座）

2019年に神奈川県演劇連盟に加盟した劇団砂からマカロン。昨年度はかながわ演劇博覧会に参加し、若さを生かしたフレッシュな舞台を魅せてくれました。そして今年度は、3月に行われる「TAK合同公演」に参戦決定。全3団体のうちのトップバッターとして登場します。

今回の劇団探訪企画では、主宰の本庄未怜さんにお話を伺いました。



－劇団砂からマカロンはどんな劇団ですか？

本庄：ひとことで言うとオタクの同人サークルです。劇団なんてそんな大層なものではございません。納本制度を恐れて同人誌を発行していないだけなんです。

－「同人サークル」ですか！？

本庄：はい。「涼宮ハルヒの憂鬱」をきっかけにオタクになったやつが脚本を書いているので、非日常系日常ものをやりがちです。劇団員全員オタクなので作品内に匂わせがめっちゃあります。ぜひデュフデュフしてください。

－劇団名の由来はなんですか？

本庄：「棚からぼたもち」をもじっただけなんです。ちなみに主宰はマカロンが嫌いなんですよ。なので差し入れにマカロンと砂は持ってこないでくださいね（笑）。

－合同公演の意気込みをお聞かせください

本庄：とんでもねえサプライズを見せてやるですよ。楽しみにしてください（`・ω・´）

－稽古の雰囲気はどんな感じですか？

本庄：世界一緩いです（笑）。多分中学校の文芸部でもうちよゝい気を引き締めています。主宰が真面目にできない病なのが全ての元凶ですね。

－来年度にやってみたいことはありますか？

本庄：去年やった舞台の続きをやりたいです。観ていない方はとりあえず続報を待っててください！

－最後に何かひとことお願いします

本庄：は？と思われるかもしれませんが、うちの作品で二次創作をしてもらうのが夢なんです。元々オタクだし、同人誌とかめっちゃめっちゃ昔買っていたので、そういうノリが大好きなんですよ。ファンアートでもいいし、小説でもいいし、何かしらそういうのが生まれたらめっちゃくちゃ嬉しいです。

最近で言うと、前回の演博でやった「とある古着屋の日常」。三人しか登場人物がいませんが、そのキャラクターたちの過去を妄想した作品を作ってもらってもいいし、私服を妄想して描いてもらってもいい。とにかく想像（創造）してもらいたい。

去年やった「こんなシェアハウスはいかがですか？」なんて、登場人物のキャラが濃すぎて二次創作にはうってつけなんですよ。二人のバイト先が同じだったり、ゲイであることを一人にだけ隠していたり、妄想し放題じゃないですか（圧）。学生組の学校生活を想像した同人誌とか私が読みたいわいっ。

そのためというわけではありませんが、うちで作られた脚本は余白が多いんです。お客様に自由に妄想（考察）してもらいたくて、わざと解決しない疑問みたいなものを残すんです。最近では1から100まで全部説明してもらわないと楽しめないって人が増えてきたと思うんですよ。正解以外は嫌だ、みたいな。

でもうちの作品は何でも正解です。絶対的正解は表に出ない脚本家しか持ってないんです。演出だって正解は知りません。ただ各々の解釈を正解だと胸張ることが大切なんだと、そう思っています。

結論、尊ければ何でもいい！

－最後のひとこと（？）がとても熱い（笑）。彼女たちのこれからの活動がとても楽しみとなりましたね。まずはTAK合同公演をぜひご覧ください。



■2021年度 TAK合同公演

劇団砂からマカロン 演目：「サプライズ!!!」

日時：2022年3月12日（土）、13日（日） 各日13:00開演



# 2021年度 TAK合同公演

開催日 2022年3月12日(土)・13日(日)  
 会場 神奈川県立青少年センター1F 紅葉坂ホール  
 入場料 一般3,000円、60歳以上2,000円、18歳以下1,000円  
 ※2日間フリーパス、全演目観劇可  
 チケット予約・購入ページ  
<https://www.g9-project.com/tak-joint2021>



## 出演団体

■3月12日(土)13:00、13日(日)13:00

劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』

作：夜叉達久、演出：本庄未怜

オープン初日を迎えるとあるカフェ。だが、スタッフの一人である前嶋が事故に遭ったと久川に連絡が入る。「久川さん、このことは他の皆には内緒にしておこう」。はたして久川は友達と仕事どちらを選ぶのか！無事スタッフ全員でオープンすることは出来るのか！？これは、絆を信じる物語。

■3月12日(土)15:00、13日(日)15:00

劇団横濱にゅうくりあ 映像ドキュメント

『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』

作/演出：泉谷渉、監督：樋口伊喜夫

「横浜の空の下」という映像作品を制作するにあたって、これからの作品づくりを目指すべく作られたドキュメント映画を初めて一般公開。「横浜における演劇の今日性」や「横浜に暮らす人たちのドラマツルギー」がテーマ。

■3月12日(土)17:00、13日(日)17:00

G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』

作：福本ぶう之介(プラスチックな月)、演出：仲尾玲二  
 みなさんご存じ西遊記の登場人物たちが、日本古来の落語の物語に登場！いくつもの世界観が入り混じった摩訶不思議な世界観でお届けいたします。果たして孫悟空たちは天竺を目指すのか！？そもそも悟空はいるのか！？

## 【来る3月12~13日は朝から晩まで演劇三昧！】

昨年コロナの影響で中止になったTAK(神奈川県演劇連盟)合同公演。今年はそれを取り戻すべく、いえ、それを上回る企画になりました。1日に3つの団体による3つの演目が上演されます！それも、チケット1枚で期間中観放題！

今回の出演団体は劇団砂からマカロン、劇団横濱にゅうくりあ、G/9-Project プロデュース(G/9-Project が発起人になり、プラスチックな月・まりこ☆みゅーじあむ・劇団かに座・芝居塾生などが参加した混成チーム)。TAK加盟劇団が競って上演致します。この3つのプログラムでお届けする合同公演ですが、見どころの一つは舞台セットが共通であること。カフェあるいはレストランが設定でそれぞれの物語が繰り広げられます。

劇団砂からマカロンは若手劇団。カフェオープンの日に起きる事件！若い視点が楽しみな舞台になるでしょう。そして今回は芝居だけではなく、これまでヨコハマをテーマに創ってこられた劇団横濱にゅうくりあは映像でお届け。混成チームのG/9-Project プロデュースは参加している年齢の幅も広く、レストランで繰り広げられる『西遊記』。其々のパラレルワールドを是非体験して下さい。

そして何より例年と違うのは「合同公演と演劇博覧会が同時開催」であること。神奈川県立青少年センターの紅葉坂ホールとスタジオHIKARIにて同日に上演されます。芝居好きの方は勿論のこと、舞台観劇未経験の方もこの機会に是非ご覧ください！

コロナ禍でも演劇の情熱は消えません。其々健康に注意しながら上演に向けて皆様にお届けするべく準備しています。昨今はオンラインでお届けする演劇もありますが、困難な時だからこそ、生の舞台をお届けできる事を駆使して上演したいと臨んでいます。皆様、劇場でお待ち申し上げます。

文：TAK合同公演実行委員  
 川井真理子(まりこ☆みゅーじあむ)

今年度は合同公演と演劇博覧会を同時開催！

## 2021年度 TAK 合同公演

会場：紅葉坂ホール

12日(土) / 13日(日)

時間	12日(土)	13日(日)
11:00	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』
12:00	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』
13:00	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』
14:00	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』
15:00	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』
16:00	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』	劇団横濱にゅうくりあ『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』
17:00	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』
18:00	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』
19:00	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』

観劇料：1,000円(18歳以下500円) ※フリーパスあり

チケット予約・購入ページ: <https://www.g9-project.com/tak-joint2021>

## 2021年度神奈川県演劇連盟合同公演

今年度は3つのプログラムを連続上演する形式です！  
 フリーパス一枚で2日間の全プログラムをご観劇頂けます！

### 第19回 かながわ演劇博覧会

12日(土) / 13日(日)

時間	12日(土)	13日(日)
11:00	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』	劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』
12:00	劇団横濱にゅうくりあ『映像ドキュメント』	劇団横濱にゅうくりあ『映像ドキュメント』
13:00	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』	G/9-Project プロデュース『西遊記 2022』

観劇料：1,000円(18歳以下500円) ※フリーパスあり

チケット予約・購入ページ: <https://www.g9-project.com/tak-joint2021>



# 第19回かながわ演劇博覧会

開催日 2022年3月12日(土)・13日(日)  
会場 神奈川県立青少年センター2F スタジオHIKARI  
入場料 無料(投げ銭制あり)

※完全事前予約制

予約ページ

<https://www.g9-project.com/enpaku-yoyaku>



## 出演団体

■3月12日(土)12:00/16:00

劇団北口改札『残心』

作/演出: 仲尾玲二

大勢の警官、野次馬達が固唾を飲んで見守る中、男は女を人質に立てこもっていた。男の要求は内閣総理大臣との直接対談。刻一刻とタイムリミットが迫る中、女は一人、男の説得を続ける。噛み合わない会話。男の真の目的を知ったとき女は…。

■3月12日(土)13:00/17:00

MMTパントマイム『色即是空』

作: 徳富敦、演出: やまさわたけみつ

パントマイムと殺陣の融合。(出演) やまさわたけみつ、金井正晴、青木祐二、みさ、秋山敏佑樹、川村裕子、木下有、袴田幸美

■3月12日(土)14:00/18:00

劇団「無題」『梶田家は超能力者である!』

作: 穂村一彦

今日は彼女のご両親へ初めてのご挨拶。しかし直前に彼女から衝撃の事実が!「うちの家系は代々超能力者で、結婚相手も超能力者って決められてるの!」結婚の許可をとるために超能力者のふりをするしかない!? ドタバタファミリーコメディ!

■3月12日(土)15:00/19:00

金沢総合高校演劇部18期『レベリオーアンフェア』

都内某所、薄暗い地下室。そこには、「想いを晴らす」集団がいる。彼らは、誰もが抱える嫉妬や憎悪、劣等感といったどうしようもない想いに苦しむ人間達に手を差し伸べる。その名を『fair』。…ある一人の依頼人から、物語は始まる。

■3月13日(土)11:00/15:00

劇団コピュラ『悪霊』

作/演出: こんのかつゆき

昭和97年。東都拘置所に勤める教誨師の元に悪霊を祓って欲しいと昔の女がやってくる。出演に野比隆彦(studio salt)、三木香、紫畑ヒロを迎え、超自然現象律動会話を創作します。

■3月13日(土)12:00/16:00

ヤニーズ『オイテイク。』

作/演出: 木村卓矢

活動再開にあたり、活動拠点を地元・奈川に移して初の公演となります。「共に生きる」をテーマに障がいのある息子と一緒に暮らしている老夫婦の物語です。体のあちこちが利かなくなり、痴呆も始まり、それでも一緒にいたいから…

■3月13日(土)13:00/17:00

劇団年輪『Voyage』

作: 大輔、演出: 宮田信宏

ある日のフェリー旅行。同船したのは、親子、社長、チンピラ? 親子の父親にはこの船に乗り込んだ別の目的があった……。船上で繰り広げられる父と娘の絆と真実の物語。



## 【7団体による演劇の祭典】

神奈川県演劇連盟が主催する演劇の祭典「かながわ演劇博覧会」、通称「演博(えんぱく)」。神奈川県下で活動する劇団や演劇団体が集まり、小作品を連続上演してゆく催しです。「演劇の敷居を低くして、普段芝居を観ない人々に芝居を観てもらおう」を合言葉に始まりました。たくさんの方々に観てもらえるよう、入場料は無料としています。多くの団体がさまざまな作品を上演することにより、いろいろなジャンルの芝居を無料で観劇できるイベントとなっております!

前回(第18回)の演博は、新型コロナウイルス感染予防対策をとった上で行ったため、無事感染者を出すことなく開催することができました。今年度も多くの方々に楽しんでいただけるようイベント作りを進めております。

今回は7団体が参加します。例年参加している団体、数年ぶりに活動した団体、今回が卒業公演となる団体など。それぞれの立場は違えど、演博を成功させたいという想いは交通しています。きっとバリエーション豊かな祭典となることでしょう。

また、例年でしたら「出入り自由」としてはいますが、今年度も新型コロナウイルス感染予防対策の一環として事前予約制度を導入することといたしました。お目当ての演目を観たい方は、ぜひ予約ページよりご予約ください。

皆様のご来場をお待ちしております。

文: かながわ演劇博覧会実行委員  
穂村一彦(劇団「無題」)



# 資料室だより

今回は貸出受付のお話をしたいと思います。

演劇資料室は図書館と同じように貸出・返却の受付があり、ボランティアのスタッフが曜日ごとに入っています。借りたい戯曲本や資料がある場合は、登録カードがあればおひとり3冊まで2週間借りる事が出来ます（登録カードは身分証明書があればその場で発行できます）。返却日にご持参できない場合、資料室まで郵送で返却することも可能です。資料室には受付スタッフが常駐していますのでお気軽にご相談ください。

さて、受付業務に携わっておりますと様々な方が演劇資料室を利用されることがわかります。中学生・高校生などの方は勿論、夏休みになると小学生の方が親子で利用される事もあります。此処には皆さんが想像できる所謂戯曲本だけではなく、幼児～小学生向けの朗読劇や人形劇の本、小学校～中学・高校生向けの演劇実践型の資料や戯曲本等も沢山所蔵しているからです。普段、自ら探さないと読まないような演劇関係の本や資料があるのです。

そんな資料室に、毎週のように借りていく方がいらっしゃいました。その方は岸田國士やシェイクスピア等、古典的な作品を選ぶことが多かったのですが、ある時、歌舞伎についての資料の所蔵について尋ねてきました。ほとんどの若い方は上演目的に戯曲本を探しにいらっしゃいますが、熱心に通っていらしたのはどうやら卒論を書く為だったようです。残念ながら1冊程しかご希望に添える本を紹介することができなかったのですが、私自身も改めて此処にある資料を確認でき嬉しく思いました。

所蔵されている本は購入のほか寄与された物が多く、貴重な古書も沢山あります。

思わぬ本に出会いが有るかもしれない資料室へ、どうぞ足をお運び下さい。

文・川井真理子（まりこ☆みゅーじあむ）

## 演劇資料室

### 【開室時間】

平日（火曜～金曜） 13:00～22:00（貸出は21:30まで）

土曜・日曜・祝日（月曜以外） 10:00～22:00（貸出は21:30まで）

### 【休室日】

月曜、年末年始

※新型コロナウイルスの影響で開室時間に変更が生じております。

ホームページをご確認の上、お越しください。

〒220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

神奈川県立青少年センター2階 演劇資料室

電話：045-286-4485



## 今後の事業・公演予定

- 2021年度 TAK合同公演『サプライズ!!!』『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた』『西遊記2022』  
2022/3/12～13、神奈川県立青少年センター・紅葉坂ホール
- 第19回かながわ演劇博覧会 2022/3/12～13、神奈川県立青少年センター・スタジオHIKARI
- TAK in KAAT『Kanagawa Music REVUE Show vol.4 (仮)』2022/4/21～24、KAAT神奈川芸術劇場大スタジオ

## 神奈川県演劇連盟加盟団体（50音順）

- 演劇プロデュース『螺旋階段』 ■京浜協同劇団 ■劇団蒼い群 ■劇団河童座 ■劇団かに座 ■劇団こゆるぎ座
- 劇団砂からマカロン ■劇団820製作所 ■劇団「無題」 ■劇団横濱にゆうくりあ ■theater 045 syndicate
- G/9-Project ■虹の素 ■プラスチックな月 ■マシュマロ・ウェーブ ■まりこ☆みゅーじあむ
- MPinK(ミュージカルプロジェクト in 神奈川) ■横浜小劇場(横浜演劇研究所附属)

## DRAMAかながわ 85号

[発行] 神奈川県演劇連盟（2022年2月28日）

[編集] オッスたかのり(劇団かに座)、吉浜直樹(劇団横濱にゆうくりあ)、穂村一彦(劇団「無題」)、  
緑慎一郎(演劇プロデュース『螺旋階段』)、野比隆彦(studio salt)、波田野淳紘(劇団820製作所)

[ホームページ] <http://kenenren.org/>



ホームページ